WSF Japan とにかく3年間つづきました

代表　三ッ谷　洋子

女性スポーツの啓蒙と振興を目標にスタートしたWSF・Japanの活動も、4年目を迎えました。これまでこれまで3年間の歩みをふり返って、今後の方向を考えてみました。皆さんのご意見もお聞かせください。

■会員の興味は多種多様

この機関誌を手にしていただくのはざっと2年ぶりでしょうか。この間、WSF・Japanは休眠していたのではないかと思っていらっしゃる方も多いかも知れません。でも、別項にまとめましたように、地味ながらも、あれこれ活動をしてきました。

中でも、特に力を入れてきたのは、「国際女性スポーツ会議」の企画です。主催、後援など決まりながらも、経費の都合などで協力スポンサーを見つけることができませんでした。これからも、折を見てぜひ開催したいと思いますが、こうした活動は、実現できなければ結局は何も後に残らず、外部から見れば「何もしていない」ように見えるのが、つらいところです。

さらに、各種催し物を開いてみて、会員の皆さんの興味の対象が、それぞれ大きく違っていることに、気がつきました。女性スポーツがテーマとはいえ、勉強会はいつも大学の先生など研究者が大多数を占めますし、親善スポーツ大会を開けば、各会員の所属する大会などの催し物にぶつかり、参加者は片寄ってしまいます。

WSF・Japanが一つの競技だけの団体なら、事はもっと簡単なのでしょう。しかし、ママさん選手と呼ばれる主婦のスポーツ愛好者をメインに、インストラクター、研究者、選手、監督、ジャーナリスト、OLなど種々雑多で、しかも、会員が全国に散らばっているとあれば、やはり活動にも工夫が必要です。

■機関誌が結ぶ会員の輪！

そこで、大きな役割を果たすのが、この機関誌なのです。お金も手間もかかるものですが、この誌上を大いに利用すれば、遠いところの仲間と意見を交換することも可能です。私はこれから、WSF・Japanの活動の中心に、この機関誌の発行をもって来たいと考えています。そして、これは昨年の暮れの総会でも、出席された方は皆さん、同意見でした。

以前の機関誌よりも、会員相互の交流をはかれる内容にしたいと思います。そして、企業の協力を得て、たとえば〝レディース・スポーツ用品大特集〟や〝女性スポーツイベントカレンダー〟というような、実用ページも、入れていきたいと考えています。どしどし原稿等、お寄せください。再び、季刊のペースで発行していきます。

■活動が生か規約が生か

昨年1年をかけて、規約作成委員会にて、規約案（左ページ参照）が作成されました。12月27日の第四回総会で成立するまでに準備していたのですが、ひとつ問題が出てきました。規約の内容はどこへ出しても恥かしくないものであることは確かですが、では、実際この規約どおりにきちんと運営していけるかとなると、これは別問題です。活動に積極的な団体会員のトップの方々が、ご自身の組織運営に手一杯だという事情もあり、結局、もう少し人材が集まるまでは、規約成立を棚上げにして、従来どおり各会員ができる身近かなことからやっていこうという結論になりました。たとえ歩みは遅くても、とにかく続けていくことこそ大切だと考えています。これからも、どうぞよろしくご支援ください。

〔3年間の歩み〕

〈WSF・Japan・NEWSの発行〉
57年4月1日＝創刊号　同7月1日＝第2号　同10月1日＝第3号　58年1月15日＝第4号　同6月10日＝第5号　60年4月30日＝第6号（以下3カ月ごとに発行予定）

〈勉強会〉
57年4月17日＝第一回「各国の女性スポーツ事情」　同7月24日＝第2回「女性スポーツ団体の歩みと今後の方向」　同10月30日＝第3回「ジャーナリズムの中の女性スポーツ」　58年6月24日＝第4回「女性スポーツの現状と課題」　同9月30日＝第5回「スポーツ界での男女差別」

〈各種行事〉
57年1月30日＝創立記念パーティー（渋谷・駒場エミナース）昭和58年3月27日＝第一回親善スポーツ大会（川崎・加藤メモリアルスポーツセンター）　同11月3日～6日＝全米女性スポーツ会議参加（米国・ワシントンDC）　同12月25日＝クリスマス懇親会（渋谷・勤労福祉会館）

〈会議等〉
57年7月24日＝第一回総会　58年2月1日＝第二回総会　59年5月29日＝第三回総会　同6月26日＝第一回規約作成委員会　同8月21日＝第二回規約作成委員会　同12月27日＝第四回総会

〈その他の協力事業〉
58年10月11日＝国際スポーツフェア'83「スポーツシンポジウム」
59年10月10日＝東京オリンピック20周年記念女子選手懇談会〝TOL〟パーティー

〔会員の顔ぶれ〕

（S60年3月31日現在）

▽団体会員・女性スポーツ団体＝全日本女子クレー射撃クラブ（会員103人）　日本OG軟式庭球連盟（会員1万2000人）　日本家庭婦人卓球連盟（会員3000人）
▽団体会員・企業＝（株）アシックス（株）小杉産業　（株）西武百貨店（株）博報堂　（株）デサント
▽個人会員＝青木典子　濵純江　池田みどり　岩波敦子　内田知子　大河内君子　音海哲子　替地あや子　北村摂子　小高みどり　坂崎和恵　島野仲子　志村光子　杉本勝子　清和洋子　関久子　高橋昭子　田島勝太郎　外山浩子　藤井佐代子　三ッ谷洋子　村本和世　山崎恵司　山田重雄

WSF Japan 規約案

〈総則〉

名称　本会の名称は WSF Japan（Women's Sports Foundation Japan＝女性スポーツ財団日本支部）とする。

目的　本会は、プロ、アマを問わず、スポーツに携わる女性の抱える諸問題の解決、女性の側からのスポーツの研究などを通じ、女性スポーツの啓蒙と発展を目的とする。

事務局　本会の事務局は当面、〒150 東京都渋谷区神宮前1－14－14－403 SPORTS21内に置く。

活動　本会は前記の目的を達成するために、次のような活動を行う。
①プロ、アマなど分野の垣根をとりはらった懇親会を開く。
②女性スポーツ全般に関する研究会講演会を開催する。
③プロ、アマが協力して、各団体会員を中心に、国内および国際親善交流大会（或いは催し）を開く。
④機関誌はSPORTS21の協力を得て、季刊で発行する。
⑤その他、会員の希望により随時、行事を組み入れる。

〈会員〉

会員の資格　女性スポーツに関心を持ち、女性スポーツの発展に寄与したいと考える人であれば年齢、性別、国籍などに一切関係なく、入会することができる。

入会金・年会費　入会と同時に、入会金と年会費を支払い、その後は会計年度の終わる3月31日までに、翌年度の年会費を納入する。個人会員／入会金3,000円　年会費8,000円　団体会員／入会金5,000円　年会費15,000円（振り込み先／富士銀行新宿支店普通預金口座570426　WSF Japan）

会員証　所定の入会金、会費を納めると、会員証が発行される。

退会　会員は以下の理由があるとき、退会することができる。
①本会の責に帰すべき事由がある場合
②会員のやむを得ない事由がある場合
ただし、退会の届出は文書をもって行うものとする。

資格停止及び除籍　会員が本会の主旨に著しく違反する行為があったとき、もしくは、本会の名誉を汚し、または、会費を2年以上滞納したときに、資格停止及び除籍されることがある。

会員の名簿　本会の会員名簿は事務局に常備し、会員は変更あるごとに通知し、訂正しなければならない。

〈会計〉

収入　本会は入会金、会費、寄付金、その他の収入によって運営する。

会計年度　本会の会計年度は毎年4月1日に始まり、3月31日に終了する。

〈役員〉

役員　本会には、次の役員を置く。
会長1名　理事長1名　理事15名以内（会長、副会長、理事長を含む）
監事2名
このほか、副会長を若干名、置くことができる。

役員の選任　会長、副会長、理事長は総会で選任し、就任と同時に理事となる。理事及び監事は、会員の中から総会で選任する。

役員の職務　会長は本会を代表して総会を召集し、その議長となる。副会長は会長を補佐し、会長に事故あるときは、予め定められた順位により、会長の職務を代行する。理事長は会長、副会長を補佐し、理事会を召集し議長となり、会務の執行に当たる。理事は理事会の構成員として、会務の執行に当たる。監事は当会の経理及び業務状況を監査する。

役員の任期　役員の任期は2年とする。ただし、再任を妨げない。役員は辞任の意思を表明し、またはその任期を終えても、後任者が決まるまで、引き続き職務を行わなければならない。ただし、特別の事情がある時は理事会の承認を得て直ちに離任することができる。

顧問　本会に顧問を置くことができる。顧問は会長が理事会の推薦を受けて委嘱する。顧問は、本会の重要事項について随時、会長の諮問に応ずる。

決算報告　本会の決算報告は毎年5月31日までに行う。